巻頭エッセイ

日本語の「科学」と英語の“science”

松尾義之

日本の科学・技術は超一流である。今年も日本人2名が受賞したが，21世紀に入ってほぼ毎年ノーベル賞受賞者を誕生させ，また，画期的な発明や技術の大半を日本から生み出している。注目すべきは，これを日本語で成し遂げているところだ。文献を読み，論文を書く時は英語も使うが，最も大切な理解や思考・創造は，あくまでも日本語(＝母語)によってなされている。

英国人や米国人は英語でscienceをしているし，ドイツ人はドイツ語でWissenschaftをしている。しかし，欧州であっても母語で科学の高等教育ができる国は多くない。アジア・アフリカ圏では，ほとんどが英語やフランス語だ。日本は特殊なのである。

では，なぜ日本人は英語でなく日本語で科学ができるのか。それは，科学をするための専門用語，知識，論理など，すべての道具がそろっているからである。でも，自然にそうなったわけではない。江戸時代の蘭学から始まり，特に幕末明治の時代に，西周（にしあまね）を代表格とする先人たちが，西欧近代文明を構成する用語や知識を，必死で日本語漢語に翻訳してくれたからである。科学や技術に限らない。教育，文化，法律，政治，経済にいたるまで，それまでの日本語に存在しなかった概念や用語を大量に翻訳・創造したのである。

科学という言葉をはじめ，実は，日本語と中国語では共通の専門用語が多い。日清戦争後に来日した中国人留学生（作家・魯迅など）が持ち帰ったからだが，うれしいことに，私の講義を聴講した中国人留学生は，この歴史的事実をきちんと知っていた。

ところで，英語による“science”と日本語による「科学」は同じものなのか。科学ジャーナリズムの中でも，特に日本語と英語の橋渡し分野で仕事をしてきた私が持ち続けてきた疑問である。もちろん，得られる普遍的真理に違いがあるわけではないが，そこへと向かう発想や筋道がかなり違う，と感じる。

『日本語の科学が世界を変える』（筑摩書房）にも書いたが，日本人は元来，右と左の極端な意見があるとき，その中間にこそ真実があるという見方をする。中庸とか中道という観点である。この「真ん中にこそ真実がある」という世界観は，湯川秀樹博士の「中間子論」や木村資生（もとお）博士の「分子進化の中立説」を導いたと私は思う。中立説は，自然淘汰に有利でも不利でもない遺伝子が存在することを証明し，欧米人を驚かせた。

西欧文化の判断様式は，基本的に，イエスかノーか，正しいか間違いかという二律背反だ。しかも聖書の影響が強い。ES細胞やiPS細胞のように，科学が聖書とぶつかる場面もしばしば出てくる。こうした縛りに無縁の日本人科学者は，明らかに自由な発想を持つことができる。日本語で科学する優位性だ。

日本人は物に対する独自の感覚を持っている。物と性質は一体不可分という世界観だ。物性論という分野があるが，この物性という言葉は日本語だけにしかなく，外国語に翻訳できない。青色LEDや超伝導などを含む日本が非常に得意な研究領域で，職人文化や技術好きともつながっている。日本の大学教授が自分で実験するのは珍しくないが，欧米なら補助職員に任せる仕事だ。

グローバル化だから英語というのは単純すぎる。科学者の共通語がブロークン英語である理由は，個別文化に基づく発想や思考を尊重しているからだ。科学技術分野では，むしろ日本語というローカルな言葉と思考法が，創造性や強い発信力を生んでいる。

（まつお よしゆき・科学ジャーナリスト）

学習者には最新の紙の辞書で指導しよう

相澤広喜

この文章を執筆しようとしていた９月15日，折しも OECD より ICT の活用と学力の相関の研究結果が発表された。昨今話題になることが多い PISA のデジタル能力調査の分析結果であるが，学校でコンピュータを利用する頻度と読解力に関しては相関があるとは言えず，コンピュータ機器の利用能力に関しては，むしろペーパー版読解力テストの成績がよい国ほど高いことが示された。

効果的な指導を抜きにして，学習者に情報機器を与えるだけでは適切な情報を得られるようにはならない，ということが証明された。わたしの勤務してきた高校では，少なくとも１年次は紙の辞書を，という指導を行ってきた。これには時代遅れではという声もあるが，今回の報道によって，もっと自分の感覚に自信を持ってよいと感じさせられた。この報道によって今後とも「紙の辞書」を用いて自学自習を促す指導を続けていきたい，との思いを新たにした。

■英語表現Ⅰ・Ⅱでの活用

さて，わたしは本年度より英語表現Ⅰ・Ⅱを担当することとなった。課ごとにテーマ英作文として100字前後のエッセイを課し，提出することを課題としている。添削をし，返却をするという作業を繰り返していたが，２学期より，生徒相互のコメントを付けることを課してみた。コメントは日本語でよいとしたが，始めてみたところ「こんなに真剣に書いたことはなかった」との感想があった。同級生に自分の文章を読まれる，という経験はあまりなく，刺激になったようである。まだ２回目の提出ではあるが「他人に伝える」意識が増したようで，以前より表現の正確さが上がり，格段に読みやすいエッセイが提出されるようになった。いくらかでも意味のある言語活動に近づいたからではと考える。

しかしこのエッセイ課題を添削していて，いくら解説してもなくならない間違いが幾つかある。現時点で最新の学習用英和辞典である『ジーニアス英和辞典 第５版』(G5)は，その点を読みやすく解説している。具体例を幾つか挙げてみたい。

日本人によくある間違いとして，G5の because に語法⑴［Because で文を始めない］として朱の網掛けされた記述がある。会話体の応答の影響であるが，生徒のエッセイにおいても Because で文を始める例が多く見受けられ，添削によって修正を試みているが，なかなか直らない。G5中の記述を示唆することによる書き直しを評価の対象とし，定期考査にも出題することによって語法の定着を図りたいと考えている。

また主語に“persons”を用いる例も多い。G5で people 名❶の注記には「⑴ persons はあまり用いられず，people がふつう：日常語では two persons より two people というのがふつう」とある。ある和英辞典で「人々」をひくと３項目めにやっと people がでてくる。電子辞書の検索順位に従っているものと思われるが，後を絶たない間違いである。

また，多くの用例が文単位で記載されているので参考にしやすい。G5では，高校で初出の，状態をいう動詞についても例文を用いて解説してい

る。forget 動他❶には，《◆通例進行形不可》としつつ，I completely forget her name.《◆「忘れた」状態をいう》 / I'm forgetting names nowadays.《◆現在の一時的習慣を表す進行形》とある。文脈に応じた表現によって時制の定着を図る指導に有効である。G4では句単位の用例が多かったことに比して文用例の割合が多くなったように感じられ，使いやすさが増している。

■「英語会話」でも利用

また，わたしは昨年度より3年生の英語会話の担当をしており，スキットを作成させ，パフォーマンステストをしている。生徒に場面設定のみ与え，プロットとセリフを書かせる。その際，会話表現の参考書というものはあまり利用せず，教科書の例文の応用に留まってきた。G5では会話表現についても多くの記述があるので，今後利用したい内容が多数ある。

上記の forget［類語比較］では，「forget は物を持って来るのを「忘れる」の意で，原則として場所の副詞(句)なしで用いる。leave は具体的な場所に「置き忘れる」の意で，場所の副詞句を伴うが，behind がつくと場所の副詞(句)はなくてもよい」とある。教科書の用例のみで学習することに比べてはるかに活用範囲が広がる。

またわたしは30年前に大学に入学し相応の教育を受けたと考えるが，英語という生きた言語を教えるにあたっては，自分が学んだ文法や発音が，時とともに変化しているのに気がつきつつも，理解はしていない場面に出くわすこともある。例えば more の「語法」。「現代英語では，本来-er 型であったものが次第に more 型に移行していく傾向がある。したがって，現在両方の型をとる語もかなり多い。どちらを用いるかは，書き言葉・話し言葉の別や文体・文脈，さらにリズムによって決定される。―中略―“I couldn't be more happy.”」など。用例としては目にすることが多くなっているが，その分析を簡潔に収録しているので，学習者にも説得力がある。

スキットの脚本は1時間で作成させ，ALT に添削してもらっているが，さらに JTE の目を通し，G5中の参照箇所を指示して書き直させることで，自然な表現の定着が期待できる。

■自律的学習の道具として

文部科学省が次々と教授法の改善を指示しており，我々高校教員も研修に追われている感が否めない。例えばアクティブ・ラーニングの導入がある。しかし，これはわれわれ，また諸先輩方が様々な形で授業に取り入れてきたものである。

文部科学省によるとアクティブ・ラーニングとは「教員による一方的な講義形式の教育とは異なり，―中略―　発見的学習，問題解決学習，体験学習，調査学習等が含まれるが，教室内でのグループ・ディスカッション，ディベート，グループ・ワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法である。」(文部科学省 HP より)

高校教員としてわれわれが従来から利用してきた紙の辞書の利用法を再度生徒に提示し，促すことによって生徒の言語活動を活発，より自然なものにし，双方向的な学習を促進することができる。インターネット環境の整備は追々なされていくことと思われるが，今回の OECD の分析に示されているように，基礎的な読解力，学習力の習得を援助していけば，今後の CBT の導入なども恐れるには及ばない。

また文科省の CAN-DO リストの活用に関しても「生徒自身が主体的に自律的学習者として活用していくこと」が不可欠な要素として挙げられている。また，そのモデルとなっている CEFR の指標として，われわれ教員の大きな役割とは学習方法の活用を援助すること，その具体的なモデルを提示することとある。学習者用に文章，会話両面を意識して編集された G5は「自律的学習」の道具として最適な英和辞典である。

（あいざわ　ひろき・兵庫県立伊丹高等学校教諭）

辞書を通じて 自立した学習者を育てる

高橋美和

■はじめに

現在の勤務校は中高一貫校で，幸運にも中学１年生から高校１年生までの４年間，クラス担任，教科担当として持ち上がっています。高校教師の私が中学生を教えるとは夢にも思わず，重圧もありましたが，毎日が新鮮で，生徒から学ぶことが非常に多くあります。本稿では，これまでの辞書指導についての取り組みを振り返ります。

■中学生への辞書指導

中学校の検定教科書は巻末に語彙集があり，「中学生は辞書を引く習慣が身についていない」とよく言われますが，あの手この手を使って初期指導を重視してきました。好奇心旺盛なこの時期にこそ「学び方を学ぶ」ことが大事で，後の言語学習に影響を与えるからです。本校では中学１年生の５月にジュニア版辞典を生徒全員に購入させています。せっかく購入させるので，「辞書と仲良くなろう」を合言葉に，授業でも家庭でもなるべく使うように仕掛けをしました。アルファベットの導入後，６月には英和辞典で早引き競争をして盛り上がりました。８月や12月の長期休みの課題では和英辞典を利用してオリジナルスキット作成に挑戦しました。身の周りの人やものを主人公にした会話文を和英辞典の助けを借りながら作っていくのですが，独創的な楽しい作品がたくさんできます。苦手な生徒は教科書の本文に１文足すだけでもよいとしました。どの活動も仲間とのシェアを大切にし，集団で学びあう姿勢の育成を目指しました。英語の得意な生徒は，辞書を早く引くコツとして，見開きのページの最初と最後の見出し語（左ページ左肩，右ページ右肩）に注目していることや，アルファベット順を覚えることが大事だということを教えてくれました。スキットを作った後は，仲間の作品を和訳するという課題でシェアを楽しみました。教科書の巻末リストで英単語の意味をさっと確認するよりも，辞書で周辺情報に出会うことを楽しんできました。

■待望の『ジーニアス英和辞典 第５版』

2014年12月末（中学３年生），待ちに待った『ジーニアス英和辞典 第５版』（G5）が届きました。待ち望んでいたのは私以上に，生徒の方だったように思います。教科書等で扱う英文も長くなり，単語の難易度も上がったため，生徒から「先生，まだ辞書来ないんですか」と何度もせがまれました。本校では，ここ数年，『ジーニアス英和辞典』を購入させています。語彙数や見やすさだけでなく，語法・用例の充実がその理由です。分厚い辞典をはじめて手にしたときの，生徒のきらきらした瞳の輝きや意欲的に辞書を引く姿は今でも忘れられません。

■春休みの課題にＧ５活用問題集

中学３年生から高校１年生への春休みの課題として『ジーニアス英和辞典 第５版 活用問題集』に取り組ませました。この問題集はPart Ⅰが中学英文法の復習，Part Ⅱ，Ⅲが辞書の活用力を高める内容になっています。高校入試がない中高一貫校の本校にとって中学英文法を系統的に学習

することは困難ですが，この問題集は中学校の総復習をするのにも，辞書の使い方を再確認するのにも有効でした。特にPart IIの辞書の活用では，「見出し語はアルファベット順に並んでいる」といった初歩的な内容の確認から，「動詞を型でとらえる」といったこの時期には高度な内容の紹介までが，発話レベルも意識して盛り込まれており，非常に役立ちました。この問題集への取り組みが，後の高校学習を大きく左右していると実感しています。

■G5を利用してみて

現在，コミュニケーション英語Ⅰと英語表現Ⅰを担当していますが，なるべくどの授業でも辞書に触れる時間を設定し，生徒とともに辞書を楽しむようにしています。授業の辞書に関するルールは「前者では毎回必ず紙の辞書を持参する」「後者では紙でも電子でもいいので，毎回必ず持参する」としており，ほぼ全員が忘れることなく持参しています。

以下は，未知語の予測を目標としたレッスンでペア活動をしたときのものです。

> He was tired out from all the work he had to do. So he was ready to give up by the time he reached the fifth grade. Then his teacher said something that changed his life. “One day she told the class that if we studied, we’ll go places,” he says. “This made me study harder.”
>
> *Genius English Communication I*
> Read on! 2 Teacher on Wheels より

生徒はペアで，下線部の意味を予測してから，辞書を引きます。「goを引いたほうがいいかな，placeを引くべきかな」「予想した意味と同じだった」などと言って，盛り上がりました。その後，全員でplaceを確認すると，

> **go places**《略式》(1)（どんどん）成功[出世]する．

とあり，ジェスチャーを交えながら意味を確認します。辞書を引くのが遅く，熟語で引くべき単語がいつも外れてしまい，肩を落とす生徒もいますが，「英語教師の私も昔は遅かったし，外れることだっていっぱいあるよ。たくさん引いて慣れていこう」と声をかけています。

また，新出語の導入でも辞書を使うと，派生語や面白い例文に出会え，例文の主語をかえた楽しい口頭英作文活動ができます。「あ。そういうことだったのか」とか「〇〇くんが主役の例文作ってあげたよ」などのつぶやきが教室のあちこちから聞こえてくるこの瞬間が大好きです。

さらに，G5では新規要素として巻末に楽しいPicture Dictionaryが入っています。描写活動の答え合わせにヘアスタイルの英語を確認したり（Picture Dictionary p.9），体育の授業の後に様々な英語の動きを確認したり（同p.10），と活用しました。また，教科書に登場する遠い国の地名もPicture Dictionaryの地図で確認することで，身近に感じられます。

■おわりに

最近，「辞書と仲良く」なっている生徒が急増しています。書き込みされた辞書，付箋だらけの辞書，シワだらけで箱に入らないほど膨れた辞書を誇らしげに見せてくれます。年度当初に見せた筆者の高校時代のボロボロになった英和辞典を意識しているのかもしれません。

デジタルネイティブの生徒にとって，紙辞書での学習はもどかしいかもしれません。しかし，紙辞書を引くことで生徒の言語意識が高まり，彼らは後に自立した学習者へとなるはずです。何度も引いて書き込みしながら世界にひとつしかない自分だけの紙辞書を作っていく喜びを，中高生には体験してほしいものです。今後も，生徒とともに辞書を楽しんで使っていきたいと思います。

（たかはし　みわ・新潟県立村上中等教育学校教諭）

VOCABULARY の泉へ ようこそ

武井　大

■初版の衝撃

『ジーニアス英和辞典 第５版』（G5）利用の話の前に少しだけ私個人の経験について記すことをお許しいただきたい。

私が『ジーニアス英和辞典』の初版に出会ったのは，高校３年の時であった。当時は，中辞典といえばほぼ同じものを使っている仲間が多い中，人とは異なるものを持ちたいという稚拙な考えとともに，書店で開いた時の感動からこの辞書の購入に至ったことを今でも覚えている。G5を見ると，その頃の内容から evolution の過程を経てきていることが分かる。

■語源と原義

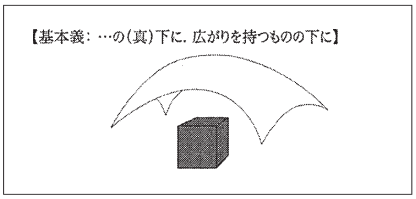
私を含め，購入者を引きつけた理由の一つとして，【原義】が明解に掲載されたことがあげられる。今も昔も語彙力は，受験生はもちろんのこと社会人にとっても英語力で最も必要な力の一つである。従って，語義がたくさんある単語については，【原義】を覚えておくことで，わざわざ受験用の単語集を買わずに済むはずである。

G5でも【原義】の魅力は継承されている。wear の項目を見るとまず，【原義：着せる→着古す→疲れ(させ)る】と，語の歴史を把握でき，頭に残りやすい記述になっている。

また，語義の❶で「…を着ている」でなく「…を身につけている」を最初に記しているので，目的語として「服」だけでなく，「化粧」「コンタクトレンズ」なども置けることが分かる。

■図でマスター

G5の特徴で学習者にとって魅力的なのは，【前置詞】のイメージ図と意味ネットワークである。複数の外国人講師に，生徒にマスターさせるのが一番難しい文法項目は何かと尋ねると，前置詞と返答されることが多い。高校生が理解するのに時間がかかるのは仮定法や分詞構文なのだが，英文を書く際に間違いが多いのは，冠詞と前置詞である。最近の参考書では掲載されるようになっているが，前置詞はイメージ(図)で理解するのが最も効果的であると言える。下の under の項目を参照すれば，概念は日本語の解説よりもずっと理解しやすい。今後は，動詞などにもイメージ(図)が入ることを期待している。



underのイメージ図

■語根・接頭辞・接尾辞の利用

本校では現在『ジーニアス英和辞典』は学校推薦辞書であるが，昨今では電子辞書のコンテンツが充実し，コストパフォーマンスが上がっているため，いわゆる紙の辞書を持つ生徒が減ってきている。しかし，よく言われるように，私も入門期の学習，特に語彙力を高める時期においては紙の辞書の利用が有益だと考えている。それは，電子辞書の限られた画面では，一度に目に入る情報量

も限られてしまうからである。

紙の辞書の利点は【語根・接頭辞・接尾辞】の参照である。例えば，contradict を辞書で調べたとしよう。G5では，【原義：反対にして（contra）言う（dict)】と書かれている。意味や例文を調べるだけではなく，この見開き2ページに目をやると大学受験・英検2級以上で必要なcontrary，contrast やその派生語が掲載されている。contra（contr）で「反（対)」というイメージが持てれば，ある程度，意味は推測でき，長文読解では武器になるはずである。私が知る限り，電子辞書ではまだ，この「見開き2ページを見る」ということはできない。ちなみに dict のほうも，dictionary や predict などの単語との関係を知れば，語彙力も増強できるであろう。実際，私は授業において語根・接頭辞・接尾辞を説明しているが，生徒もよく聞いてくれる。この知識は，初期だけでなく中級の学習者にとっても，好奇心を喚起し，理解を深めるスキルとなるであろう。

■英作文の指導

G5で evolution と考えられる項目の中に【類語比較】の増設がある。現在私が教えている高校2年生は自分の意思を表現できるように英語の例文暗誦をしているところだが，高校3年生になると，思いつく日本語にどの英語表現を使えば良いのか躊躇するようになる。

例えば，「国」ということばにすべて country を当てはめる生徒が出てくる。日本人の心をえぐり国民的関心事となった「イスラム国」も英語にすると“country”ではなく，彼ら自身は Islamic State，メディアなどでは Islamic State in Iraq and the Levant と“state”を用いている。この点を理解するには右上の知識があると適切な単語選択ができる。G5には多くの【類語比較】が掲載されており，コラムとして読んでも良い学習になるのではないだろうか。

> **類語比較** [**country, nation, state**] **country** は地理的な国土としての国で **nation** は特に言語･歴史･文化を共にする人々の共同体として見た国を指すが，この2つの語はしばしば交換して用いられる：Germany was divided into two countries [nations] after the World War II. 第二次大戦後ドイツは2つの国に分割された. **state** は法律的･政治的な概念としての国家を指し，主に政府の特定の形態をいう：a military [welfare, socialist] state 軍事[福祉，社会主義]国家.

また，【コロケーション＋】の項目も英作文学習には有用である。money の【コロケーション＋】を見ると多くの表現が掲載されている。生徒が書く際に，native が使わない［動詞＋目的語］の組み合わせを使うことがある。高校生ともなれば，use money, study homework などとは書かないが，do＋...（名詞）で「…をする」（例：do a census）と苦し紛れに書く生徒はいる。私個人も，【語法】【表現】も参考にしながら，英作文の指導に生かしたいと考えている。

■最後に

TOEFL，TOEIC，TEAP，様々な資格・検定試験，大学入試において，語彙力の増強が何よりも大切であることは言うまでもない。もちろん，基盤となる文法力は必要であるが，点数が伸びなかったり，不合格となっている生徒は語彙力不足に起因していることが多い。

「辞書を引け！」という教師が減って久しい。しかし，生徒が効果的に語彙力を増強し4技能で使えるようにするには，教育現場で定着している音読→テスト(確認)に加え，G5など紙の辞書，インターネットなどを使った単語参照・調査のような academic　task の実践も期待したい。この task を個人だけでなく group でも行い，presentation につなげれば，文部科学省が推奨する active learning の一手段となるのではないだろうか。

私の高校時代から IT 社会の現代になっても，「言葉を楽しむ」ことができる VOCABULARY の泉が紙の辞書にはある。

（たけい　まさる・桐光学園中学高等学校教諭）

G５を使った「アクティブ・ラーニング」の実践例

髙瀬　博

教員が生徒に対し一方向的に知識を教授する従来の「講義形式」の授業だけでは「自ら学び，自ら問題を解決できる能力を持った人材は育たない」という考え方に基づいた「アクティブ・ラーニング」（AL）の導入が叫ばれ，全国各地でその取り組みが模索されている。

「講義中心の授業」ではなく「体験型学習」や「（生徒と共に学ぶ）共同学習」を多く取り入れることで，学問本来の「おもしろさ」に気づかせ，高校を卒業した後も自主的に学問を続けることができる力を身に付けさせることができる，理想的な AL の一例を以下に紹介したいと思います。

【問題１】　（　）に色の名前を入れなさい。

1．as（　）as a crow　　2．as（　）as a berry
3．as（　）as a sheet　　4．as（　）as snow
5．as（　）as grass　　6．as（　）as pitch

【語群】 black / brown / green / white

この種の問題は最後の語を調べればいい。１の場合は crow を調べると用例で「真っ黒で」と出てくる。しかし，ここで終わってはいけない。G5でこの項をよく読むと，鳥の種類（raven ワタリガラス，rook ミヤマガラス，jackdaw コクマルガラス，carrion crow ハシボソガラス〔訳は筆者追加〕）や The distance is 5 km as the crow flies, but 7 km by road. という例文とともに as the crow flies が「直線距離で」という意味になる理由まで詳しく解説してある。

生徒が興味を示してきたら，「鳥が出てくるその他の表現」を G5の中から抜き出してみようと声をかけて下記のような穴埋め問題をさせ，さらに関心を持たせるのも効果的だ。

7．as（　）as a bird　　8．as（　）as a dodo
9．as（　）as a peacock
10．as（　）as a parrot　11．as（　）as a coot

【語群】 bald / dead / free / proud / sick

「as ... as 構文」になじんできたので，次のような発展問題を解いてもらうことにした。【語群】にある語を１語１語調べることで「なるほど」と納得するとともに，「学ぶことの喜び」を体験させることができるはずだ。

実際，この問題をさせたところ，生徒達から「試験のカンニングは cheating と言うんだ」とか，「ノウサギの発情期は３月なんだ」という声が聞こえてきた。

【発展編】　（　）に動物の名を入れなさい。

12．as strong as a（　）
13．as poor as a church（　）
14．as cunning as a（　）
15．as mad as a March（　）
16．as stubborn as a（　）

【語群】 fox / hare / horse / mouse / mule

「色」「鳥」「動物」について取り上げたが，他にもこの種の表現はいっぱいある。G5を使う際，出てきたら書き留めておくよう指示しておいたら，数か月後，英語学習に興味を覚えた生徒が以下のような例をまとめてきた。AL の効果があったことを実感してうれしかったので，「この種の

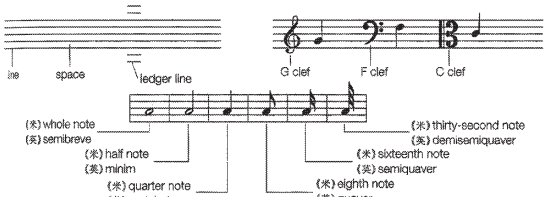
表現は記載のない辞書が多いんだよ」と伝えると，「G5でよかった」と満足げだった。

as warm as toast / as quick as a wink / as pure as the driven snow / as comfortable as an old shoe / as plain as day［a pikestaff, the nose on your face］/ as flat as a pancake / as fit as a fiddle / as clean as a whistle / as fresh as a daisy

【問題２】 次の日本語を英語で表現しなさい。

1．二分音符　2．四分音符　3．ト音記号
4．ハ音記号　5．ヘ音記号

「講義中心」の従来の教授法だと，あらかじめ教員が問題と解答をすべて準備し，生徒はただ解答を覚えるだけという場合が多い。こういった教授法では，知識だけは増えるが，自分で解答を導き出すことのできる人材は育たない。【問題２】の場合も「共通する物は何ですか」と教員が投げかけ，生徒に「音楽」と気づかせ，「では，その語を英語で調べてごらん」と指示を出すと，生徒は“music”を調べる。しかし，それで答えが全部得られるわけではない。「生徒自らが辞書で調べて自ら答えを導き出す」という作業をすることで，①「音部記号」は上記の３つしかないこと，②アメリカ英語とイギリス英語で表現方法が違う場合もあることを学ぶことができる。



【問題３】 次の単語を英語で表現しなさい。

1．エンタイトルツーベース　2．タッチアウト
3．ランニングホーマー　4．アウトコース
5．インコース　6．バックネット
7．デッドボール　8．タッチアウト
9．シーズンオフ　10．フリーバッティング

これらはすべて「野球」関係の外来語である。“baseball”を調べ，正しい英語表現を見つけさせると，「へえ，みんな和製英語だったんだ」と感動の声があがった。そこで，「日本の野球は，セリーグとパリーグがあるけど，アメリカの野球はどうなの？」と聞くと，知らないであろう質問をしたのに，ちゃんと正解が返ってきた。そこで，「ボーク（balk）」や「エンタイトル（entitle）」の意味や使い方を聞くと，自ら進んで辞書を調べて確認していた。教員がすべてを教えなくてもG5さえあればかなりの疑問点を解決できることを痛感するとともに，「これからの教授法は，これだ」と実感した１日だった。

豆知識［野球用語の日英比較］ outside corner アウトコース《◆×out course とはいわない》/ inside corner インコース《◆×in course とはいわない》/ tag タッチアウト《◆この意味で touch は用いない》/ screwball シュート《◆この意味で shoot は用いない》/ batting practice フリーバッティング《◆×free batting とはいわない》/ fungo ノック《◆この意味で knock は用いない》/ backstop バックネット《◆×backnet とはいわない》/ off-season シーズンオフ《◆×season off とはいわない》/ inside-the-park homer ランニングホーマー《◆×running homer は誤り》/ carom クッションボール《◆×cushion ball とはいわない》/ overhand throw オーバースロー《◆ overthrow は「悪送球」の意味》/ ground rule double エンタイトルツーベース《◆×entitle two-base とはいわない》/ walk 四球《◆×four balls とはいわない》/ hit by a pitch デッドボール《◆この意味で dead ball は用いない》.

以上にあげたように，実際に自分で英和辞典を調べることで，自ら解決する能力が身に付くだけでなく，自分がどんな事柄に興味があり，また何を深く学んでいきたいのかを見つけるきっかけになる。巻末の Picture Dictionary を使って，英語で運動させたり，さまざまな教育活動「AL」に十分活用できる「英和辞典」だと思う。

今までは「教え方がうまく，何でも解決してくれる先生が良い先生」と定義されてきたが，これからは「何でも自分で解決できる力をつけてくれる先生が良い先生」と評価されると思う。生徒にすぐに「解答」を与えるのではなく，G5を使って「自分で解決する力」を身に付けてあげる授業が求められていると思う。

（たかせ　ひろし・福岡県立須恵高等学校教諭）

G５を編む

中邑光男

国語辞典の編纂，編集者をテーマにした映画である『舟を編む』を見た学生から尋ねられた。「どうして大学の仕事を辞めて，辞書編纂に専念しないのですか」

「日本では，フルタイムの英和辞典の編纂者は原則として存在しない。辞書編纂者は学校で教えながら，作業にあたらざるを得ないんだ」

しかし，と思う。私を含むG5の編纂に携わった多くの英語教員は，この事実を辞書編纂の「足かせ」ではなく「跳躍板」としてきたのではないか。生徒・学生を指導する際に，彼らが発する「質問」や，教員の頭に浮かぶ「修正案」を積極的に編纂作業に生かしてきたのではないか。実際，G5には，生徒・学生の声を念頭においてG4の記述を改良した箇所が少なくないのである。

本稿では，改良点のいくつかを取り上げ，G5がどのように利用者の声を取り込んで編まれたのかをたどっていきたい。

■「G５を編む」第１話：evening と night の違いについて

言うまでもなく，学習者はnightを「夜」，eveningを「夕方」と覚えている。私は「ではどうして女性はevening dressを『夕方』だけでなく『夜』にも着るのか」と学生に尋ね，G4を調べさせてきた。

G4では，nightは「日没から日の出までの間」，eveningは「日没から就寝までの間」と定義し，「ある時をeveningとnightのどちらととらえるのかはその人の主観による」と説明する。この説明を読んだ学生が「この『主観』とはどのようなものなのか」と質問した。いい質問だ。

そこでG5では「(nightは）特に就寝前のくつろいでいる間や寝ている間を指す.日没から就寝までの活動している間はeveningと呼ぶ」との注記を与えた。これにより，学習者は，例えば宿題をするのに忙しい夜の時間はevening，リラックスしてテレビを見る夜の時間はnightと呼ぶことがわかるだろう。私の学生も「社交などのために忙しい夜の時間に着るドレスだから，evening dressと言う」と分かってくれるだろう。

■「G５を編む」第２話：at と for の違いについて

学生から「シンガポール航空機のモニター画面で，『大阪の現地時間』がTime at Osakaと書かれていたが，どうしてTime in Osakaとならないのか」という質問を受けた。

G4はそのような疑問に答えを見出す助けとなることを得意としている。学生にG4の「大都市でも地図上の一点，寄港地・乗り換え地点として見た場合はatがふつう」という語法情報を調べさせた。(ただし，「寄港地・乗り換え地点」は分かりにくい。G5では「電車や飛行機の乗り換え地点」と修正した。)

このように地点・場所を表すatには詳しかったG4だが，atの語義12の用例「sell these things at [for] ten dollars（each）これらを（１つ）10ドルで売る」では，atとforの違いを明示的には説明していない。atは「数直線上の点を示す」という一般的な注記を示しただけだ。この点に気

がついたのは，私がビジネス英語の授業の準備をしている時だった。言うまでもなく，価格の示し方はビジネス英語で重要な表現だ。学生から質問されるのは時間の問題だ。

そこでG5では，それぞれの前置詞の基本的な意味に関連させて「at は値段を尺度上のある1点ととらえ，for はある金額で等価交換することを意味する」とこの違いを説明した。これに加えて，授業では「at は単価を述べるのに，for は合計金額を述べるのに用いられる傾向がある」と追加説明するつもりだ。

■「G5を編む」第3話：think の文型について

留学を希望する学生が，書いた英語を見てコメントがほしい，と言ってきた。彼の英文を見ると，普通よりも難しい語彙や構文を使い学習成果を披露しようとしている箇所があった。例えば，I think that he is wrong. と書けばいいところを，I think him wrong. と書いている。「このような日常的な内容を書くのにわざわざ SVOC を持ち出す必要はない」と指導した。

ところが，G4の think の語義2に次の用例がある。「She ～*s* herself pretty ［a pretty girl］. 彼女は自分のことをかわいいと思っている（＝She ～*s* that she is pretty .）」この言い換えを見た学生は「この説明から考えると，やはりI think him wrong. はI think that he is wrong. と同じではないでしょうか」とさらに質問してきた。

私は，G4の「この辞典の使い方」にある「等号（＝）はまったく等しいという意味ではなく，むしろ≒ということ」を説明した上で，She thinks herself pretty. と She thinks that she is pretty. の違いを説明したが，学生は釈然としない顔をしている。それもそうだろう。そもそも「この辞典の使い方」を読んだことのある学生に今まで会ったことがない。

そこでG5では，She thinks herself pretty. と She thinks that she is pretty. では，「that 節を用いる方がふつう」という注記を加えた。（同様の注記は，acquaintance，advise，confess などでも加え，表現の際の助けにしたつもりだ。）これにより，この学生はI think that he is wrong. という文型の文を積極的に書くようになった。次の段階では，I think him wrong. の文型は，どのような場面で使うのかを指導しよう。

■「G5を編む」第4話：had better の発音について

had better が文脈によっては「強い忠告・命令・警告・脅し」などを表すことがある，という点は，「総合英語」の参考書にも書かれている。そのために，「You had better ... はあまり使ってはいけないと高校で習った」と言う学生が増えてきた。

そこで私の授業では，一歩先を行くために，had better を含む文のイントネーションと忠告・脅しとの関係を指導することにしている。要は，この表現を含む文を「下降上昇調」で読むと警告・脅しになると説明するのだが，それはなぜか，を説明するのは少々やっかいだ。

G4は見出し語 better の成句として had better を示し，「You'*d* ～ do it.（↘）そうしたほうがよい（さもないと…），そうした方が身のためですよ《◆警告：後に or 節が省略されている》」と説明している。しかし，この説明ではなぜ you had better を下降上昇調で読むと警告を表すのかは分かりにくいかもしれない。実際私の学生はここをあまりよく理解できなかったようであった。

そこでG5では，次のように説明を追加した。「You'*d better* do it quickly.（↘）ぐずぐずしないで，そうすることだな《◆警告・脅し；この下降上昇調は後に or　else か or 節の省略を含意：You'd better study harder（, or I'll fail you）. もっと勉強しないと単位をやらないぞ》」

日本語でも下降上昇調が，後にことばが続くことを含意することがある。いやむしろ日本語には

そのような表現が多い。授業では，日本語の例を挙げ，学生の下降上昇調に対する理解度を深めようと思う。

■「G５を編む」第５話：help の語法注記について

『ジーニアス英和辞典』は，語法研究に基づいた情報が豊富な点が高く評価されていると言われる。しかしこの語法研究が「くせ者」だ。表現Ａと，それに意味・構造が非常によく似た表現Ｂがあるとき，ＡとＢの違いを説明するのが語法研究であり，それを支えるのが，ボリンジャーの唱えた「形が違えば意味が異なる」という考え方である。

ネイティブスピーカーにＡとＢの意味の違いを尋ねると，「違いはない」と言われることが珍しくない。しかし実はここから語法研究者の仕事が始まる。語法研究者は，ネイティブスピーカーが「１ミリ」の差もないと思う表現を，あたかも「１メートル」の差があるように示そうとする。そう説明しなければ，日本人英語学習者が，表現を本当に理解できたと思わないからだ。

しかしながら，このために，語法研究には，「表現の違いを強調しすぎる」というリスクが潜在的に存在すると言えよう。このリスクが顕在化したのが，G4の見出し語 help にある，to の有無に関してであった。

- to は，リズムや文体にもよるが，Ｓが直接「手を貸して」を含意するときに多く省略される.したがって，He ～*ed* me climb the stairs by propping me up with his shoulder.（階段を上るとき彼はずっと肩で私を支えてくれた）のような場合では to をつけないのがふつう.

これに対して，他の辞書や語法書では，そのような差を指摘したネイティブスピーカーはいなかった，と報告されたのだ。そこで，G5では該当箇所を次のように変更することにした。to の有無で生じる違いを強調することは避けながらも，ボリンジャーの考え方に従って，やはり違いには言及したことに注意されたい。

- ［help O to do と help O do］a）to の有無はスタイルや口調によって決定されることが多い．意味のうえで to do は間接的な援助に，do は直接的な援助に用いるという傾向は見られるが，わずかな違いなのでほぼ同義と考えて差し支えない

語法情報を充実させるという作業にリスクはつきものだ。しかし，『ジーニアス英和辞典』が語法を細かく説明してきたために，日本人学習者が「英語が分かる」と感じたことも事実だ。『ジーニアス英和辞典』では今後も語法情報を充実させていかなければならないと考えている。

■「G５を編む」第６話：新語の selfie について

今年の夏に学生をシアトルへ引率した時に，学生から「『自撮りする』を英語でどう言うのか」と聞かれた。私は自信満々に答えた。いつかこの質問が出てくると予想していたからだ。「自撮りの写真は selfie と言う。この新語は G5に収録されている。そこから『自撮りする』は take a selfie と言うだろう。selfie はまた動詞としても使われ始めている。この動詞用法はまだ十分に英語に定着していないと判断し，G5には載せていない」

「では，『自撮り棒』はどう言うのですか」という質問に不意を突かれた。G5には「自撮り棒」の英語表現はない。その学生には「a selfie rod という表現を見かけたことがあると思うが，確かなことは分からない…。調べてから伝える」と言った。しどろもどろになった。

当然のことだが，若者は新語を知りたがる。私が学生を指導している間は，このように新語のストックを拡充することができるだろう。私は，学生に感謝しなければならない。『ジーニアス英和辞典』の利用者に感謝しなければならない。

（なかむら　みつお・関西大学教授，Ｇ５編集委員）

コラム

私と「ジーニアス」

池内敏郎

私がジーニアスと関わりを持たせていただくようになったのは『ジーニアス英和大辞典』の執筆，校閲協力者として仕事をさせていただいた今から約16年前です。その後，縁あって『ジーニアス英和辞典 第3版』『ベーシックジーニアス英和辞典』『ジーニアス和英辞典 第2版』の都合4冊で執筆や編集協力に関わらせていただきました。その後も仕事の依頼がありましたが，校務の多忙化や健康上の理由でお断りせざるをえませんでした。ただし，その後もユーザーとして気のついたことを時折編集部にお送りした結果，G5では資料提供者として名前を載せていただき，大変恐縮いたしております。高校での教員生活をスタートさせてから約40年経ちましたが，この辞典の執筆で多くのことを学ばせていただき，その経験が教える時に本当に役立っています。

最近の生徒は本当に辞書をきちんと引けなくなっています。辞書を引いても1番目の訳語を写すだけという生徒が大半です。There is no room for doubt about his guilt. という文を見て，「彼の有罪を疑う部屋はない」と和訳して平気な生徒が大半です。G5では room の名❸に「〔…の / …する〕余地；機会，可能性〔*for* / *to* do〕」という記述があり，訳語の左右の〔　〕内の日本語と英語の記述が関連していることを確認させます。この連語関係の記述は英文読解や和文英訳にとても役立つ情報で，『ジーニアス英和辞典』の優れている点です。

また，英語に少しでも興味を持ってもらえるように，自分が執筆した時の話（脱線？）もよくします。population の例文 The population of India is「much larger［《略式》a lot bigger］than that of Japan. は，実は私が G3を執筆していた時に，Sidney Sheldon の小説を読んでいて population を big が修飾している文を見つけ，これを参考に G3に入れていただいたものですが，日本の英和辞典でこのことを載せているのは「ジーニアス」だけです。教師も“learner”として絶えず学んでいるという姿を生徒に見せて，生徒の学習意欲を少しでも高めたいという気持ちからこのような話や失敗談をよく生徒にします。

G5は G4よりも本体が約200ページ増え，内容も確実に進化し，引いてみると改めて教わることが多々あります。『英語教育』の Question Box で原川先生が解説されていた「A, if not B」の用例として The concept is difficult, if not impossible, to understand.（その概念を理解するのは難しい，いや不可能かもしれない）が載っていますが，これは言われないと誤解しかねない語法です。また，「no more A than B」の記述も大幅に書き直され，A whale is no more a fish than a horse is. の訳も「クジラが魚というのなら馬だって立派な魚だよ」になっています。

さらに look up to と respect, look down on と despise の類語比較の詳細な記述も参考になります。この類語比較を読み，今までただ機械的にイコールと教えてきた自分が恥ずかしくなりました。これからもジーニアスとは当分の間，縁が切れそうにありません。

（いけうち　としろう・新潟県立高田北城高等学校常勤講師）

“be senior to”は「年上だ」の意味か
——G5でわかる解釈の誤り

柏野健次

昨年12月に刊行された『ジーニアス英和辞典第５版』(G5) には，A (,) not to say B という成句の意味は「AよりもB(だ)と言った方がよい」と書かれている。

これに対してある英語教師より『英語教育』誌の Question Box 欄に，「この成句は『Bとは言わないまでもA』の意味ではないのか」という質問が寄せられた。回答者である私は，G5の記述は正しく，話し手はBに焦点を置いて発言している」と答えた。

このように，数ある熟語の中には，誤った解釈のまま教えられているものも多いと思われる。そこで，本稿では「解釈の誤り」の具体例を３つ取り上げ，それぞれの真の意味を順に明らかにしていきたい。

■ be senior [junior] to

(1)　He is three years senior to me.（彼は私よりも３歳年上です）——高校用参考書

この英語の和訳は正しくない。(1)のように，形容詞の senior や junior を人の年齢を比較するときに使うのは古風で，最近では通例，会社内の年功序列に関して用いられるからである。

Oxford Advanced Learner's Dictionary（1974年，初版）は senior と junior の定義として，それぞれ“old in years ; higher in rank, authority, etc.”と“younger, lower in rank, than another”を挙げていたが，2010年の版では“old in years”と“younger”が削除されている。ここからも現在では senior や junior は年齢ではなく，ランクの上下の場合に用いられることが分かる。

したがって，(1)の「年数＋senior to」の形自体，ふつうではないが，強いて解釈すれば「彼は私よりも勤務期間が３年長く私よりも地位が上」となる。

なお，年齢に関しては older や younger を使うのが一般的であるが，senior や junior を形容詞ではなく名詞として用いた場合には年齢に言及できる点に注意する必要がある。

(2)　Antonio was getting married again, and to a woman fifteen years his senior.（アントニオは再婚しようとしていた。しかも15歳，年上の女性と）——J. Collins, *Hollywood Wives*

【→ G5，senior / junior】

■ may well

(3)　She may well be proud of her son.（彼女が息子を自慢するのももっともだ）——某英和辞典

現代英語では，may well をこのように「…するのももっともだ」の意味で使うことはあまりなく，「たぶん…だろう」の意で用いることの方がはるかに多い。現に英英辞典の中には，*Macmillan English Dictionary*[2]（2008）のように「…するのももっともだ」の語義を載せていないものもある。

「…するのももっともだ」の意を表す may well は，You may well ask.［I don't know. の意。通例，軽くユーモアを込めて使う］のような決まり文句か，倒置されて文語体で用いる Well may she be proud of her son. くらいでしか見ら

れない。

したがって，(3)は，次のような文脈で，「たぶん…だろう」の意で使われるのがふつうということになる。

(4) She may well be proud of her son when she sees what he can do.（自分の息子に何ができるかが分かれば彼女はきっと彼を誇りに思うだろう）——ネイティブ・スピーカー提供

ちなみに，「たぶん…だろう」の意を表す may well は「かもしれない」の意の may に well「十分に」が付け加えられた表現である。したがって，may well は may 単独よりも可能性の度合いは高くなる。

この両者をあるネイティブ・スピーカーのコメントを参考に比較すると次のようになる。

(5) a．That painting may well be genuine.（その絵はたぶん本物だろう）［＝That painting is probably genuine.］話し手の確信度は70％以上。

b．That painting may be genuine.（その絵は本物かもしれない）［＝That painting is possibly genuine.］ 話し手の確信度は30％以下。

【→ G5，well】

■ be willing to do

(6) I am willing to help you with your work.（私は喜んで君の仕事を手伝います）——高校用参考書

このように，従来 be willing to は「喜んで…する」という意味を表すと教えられてきたように思うが，訳語として正確ではない。この表現は be glad［happy］to ほど積極的な意味は表さず，「別に…しても構わない」というやや消極的な意味を表すからである。

これが正しいことは，*Oxford Learner's Pocket Dictionary*[4]（2008）の“not objecting to doing something; having no reason for not doing something”という定義を見れば明らかである。

したがって，(6)は「君の仕事を手伝っても別に構わない」という意味を表すことになる。

以下に類例を挙げるが，(8)では in fact（それどころか）を挟んでの be willing to と be anxious to の対比に注意したい。

(7) The Yankees are doing what they have to do to make MLB attractive to fans in general, and are willing to lose money temporarily to be winners.（ヤンキースは大リーグがファン全体にとって魅力あるものになるように大いに努力している。そして，ヤンキースは優勝するためには一時的に損失が出ても構わないとさえ考えている）——Google : ca domain

(8) “He called in to say he heard a commotion last night and is willing to give a statement. In fact, I gather he's anxious to give a statement.”（「彼は昨夜の騒ぎを聞きつけたと電話してきて，警察に証言してもいいと言っている。いやむしろ，証言したがっていると思う」）——W. Harrington, *The Hoffa Connection*

ただし，willing が限定用法で使われている場合，あるいは副詞（willingly）として用いられる場合は積極的な意味を表すことを付しておきたい。

(9) David is a reliable person, pleasant in manner and a hard and willing worker.（デビットは頼りがいがあり，礼儀正しく，そして自分から進んで一生懸命に働く人間です）——Google : uk domain

(10) I wondered whether the subject was getting too difficult for her. But then she talked on willingly.（その話題は彼女にはだんだん難しくなってきているのではないかと思ったが，それでも彼女は自ら進んで話を続けた）——E. Segal, *Only Love*

【→ G5，willing】

（かしの　けんじ・大阪樟蔭女子大学名誉教授）

月刊『英語教育』連載 Question Box より

イギリス発音の/ɒ/の記号について

南條健助

Q. 『ジーニアス英和辞典』（第5版）（G5）の発音記号についてお尋ねします。イギリス発音では，従来の/ɔ/の記号の代わりに新しく/ɒ/という記号が使用されています。この記号は英英辞典では見られますが，私の知る範囲では日本の辞書では見たことがありません。G5がこの記号を使用するようになった理由を教えて下さい。これは/ɔ/の発音が変化したからでしょうか。/ɔ/と/ɒ/の違いを教えて下さい。　（東京都　H. I.）

Ans. 標準英国発音（英音）における lot や top の母音の表記に/ɒ/という記号を採用したのは，日本の英和辞典としては G5が初めてです。そのため，この記号の使用について同様の疑問をお持ちの読者も多くおられることでしょう。有益なご質問をお寄せいただき，ありがとうございます。

G5で/ɔ/の記号を/ɒ/に変更した理由ですが，/ɔ/の発音が変化したからではありません。また，発音表記を精密化しようとしたわけでもありません。今回の変更は，牧野（2006）がいみじくも批判している日本独特の発音表記方式の不備を是正することが第一義的な理由でした。同時に，/ɔ/の記号が長年学習者に与えてきた誤解を解消するためにも変更が必要でした。

まず，音声事実を確認しておきましょう。従来，日本の英和辞典では，law や talk の母音は/ɔː/と表記され，lot や top の英音の母音は/ɔ/と表記されてきました。前者は長母音，後者は短母音ですが，両者は単に長さが異なるだけでなく，音質そのものが違います。英音における長母音の/ɔː/は，日本語の「オー」に近い母音ですが，唇はかなり強く丸められます。一方，短母音の/ɔ/は，日本語の「オ」よりも口の開きが大きく，唇の丸めも弱いため，むしろ日本語の「オ」と「ア」の中間くらいの響きになります。詳しくは，小川（2009：5，17）および竹林・斎藤（2008：26，34-35）をご参照ください。

さて，日本のほとんどの英和辞典は，大正時代以来，長年にわたって音量表記（quantitative transcription）あるいはジョーンズ式（Jonesian system）と呼ばれる発音表記方式を採用してきました（『ジーニアス英和辞典』の発音表記も，G3（2001）までこの方式でした）。この方式では，beat と bit の母音は，それぞれ/iː/と/i/のように，pool と pull の母音は，それぞれ/uː/と/u/のように表記されます。すなわち，音質の違う母音にあえて同じ記号を用い，長さ（音量）の違いのみを明示する方式です。

それに対し，ここ10年程の間に新たに出版（または改訂）された英和辞典の多くが採用しているのが，音質の違いと長さの違いの両方を明示する音質音量表記（qualitative-quantitative transcription）あるいはギムソン式（Gimsonian system）と呼ばれる方式です（『ジーニアス英和辞典』も G4（2006）から採用しています）。この方式では，異なった音質の母音は異なった記号で表記されますので，beat と bit の母音は，それぞれ/iː/と/ɪ/のように，pool と pull の母音は，それぞれ/uː/と/ʊ/（または/ʊ/）のように表記されます。今日では，英国で出版されている全ての英語発音辞典と学習英英辞典，および主要な一般英英辞典がこ

の方式を採用しており，英音の発音表記における事実上の世界標準となっています。

上述のように，英音において，音質の違うlawやtalkの母音とlotやtopの母音を，あえて同じ記号を用いて，それぞれ/ɔː/と/ɔ/のように表記するのは音量表記です。それに対し，音質音量表記を世界的に普及させ，定着させた英国の音声学者A. C. Gimson（1917-1985）は，その著書（1962）において，lotやtopの短母音を/ɒ/の記号で表記し，lawやtalkの長母音/ɔː/と区別しました。

音量表記は，使用する記号の数が少ないため，一見，学習者の負担は軽減されるように思われます。しかし，いかなる発音表記にも必ず規約（convention）が伴います（枡矢1976：102-103）。音量表記は，/iː，uː，ɔː/と/i，u，ɔ/のように，表記上は音質の違いを明示しませんが，その前提として「同じ記号であっても，長母音と短母音では音質が異なる」という規約が存在します。このような規約は，学習者にとって分かりにくいばかりでなく，そもそも知られていないというのが現状でしょう。長年，音量表記が「/ɔː/と/ɔ/は長さが違うだけで音質は同じである」という誤解を学習者に与えてきたことは否めません。なお，/ɔː/と/ɔ/を含め，英語の母音の発音表記に関する問題点を整理し，優れた改善案を提示している論文に小林（2009）があります。

このような音量表記の問題は，本来は，音質音量表記に変更することによって解決されるはずでした。しかし，日本の英和辞典の場合，音量表記から音質音量表記への移行が，なぜか中途半端になされたため，/ɪ/と/ʊ/（または/ʊ/）の記号は採用されたものの，/ɒ/の記号は採用されませんでした。その結果，/ɔː/と/ɔ/の区別は音量表記のまま放置され，音質音量表記の中に音量表記が混在した状態になっていました。牧野（2006）は，「/ɪ，ʊ/を採用している英和辞典は全てこの状態にあ」ると述べ，このような表記方式の不備を批判しています。「従来のJones式の方がまだ一貫性があった」との指摘は，全くその通りだと思います。音質音量表記を採用していながら，/ɔː/と/ɔ/という表記を残したままでは，かえって「/ɔː/と/ɔ/の音質は同じである」という誤解にお墨付きを与えるようなものでした。音質音量表記では，異なった音質の母音であれば，異なった記号で表記されるはずだからです。このような木に竹を接いだような表記方式は，海外では見られない日本独特の方式です。

Gimson（1962）から半世紀以上経ってしまいましたが，遅れ馳せながらG5が/ɒ/の記号を採用したことで，母音の発音表記に関する理論的な問題も教育的な問題も，ようやく解決されたと考えています。以上，ご参考になれば幸いです。

◆引用文献

Gimson, A. C.（1962）An Introduction to the Pronunciation of English. London: Edward Arnold.

小林篤志（2009）「英語の後舌低母音の発音表記に関する改善案――外国語教育の視点から」『女子美術大学研究紀要』第39号，pp.71-85.

牧野武彦（2006）「学習用英和辞典にイギリス発音の表記は必要か？」https://phoneticsofenglish.wordpress.com/2006/11/

小川直樹（2009）『イギリス英語でしゃべりたい！――UK発音パーフェクトガイド』研究社.

竹林　滋・斎藤弘子（2008）『新装版　英語音声学入門大修館書店.

枡矢好弘（1976）『英語音声学』こびあん書房.

（なんじょう　けんすけ・桃山学院大学国際教養学部准教授）

※『英語教育』2015年7月号から転載。

■ Question Box 質問募集■

質問は随時募集しています。郵便かEメールでお送りください。内容は発音・文法・語法など英語に関するものなら何でも結構です。初歩的な疑問や「生徒にどう説明すべきか」といった指導方法に関する質問も歓迎いたします。

＊宛先：〒113-8541　文京区湯島2-1-1　大修館書店『英語教育』QB係。Eメールの場合は件名を必ず「QB質問」としてください。email：eigokyoiku@taishukan.co.jp

＊質問の引用文には著者名・書名・出版社・出版年・引用頁を示し，該当頁のコピーを添えてください。

＊なお，採用の場合，当該記事は小誌の紙版・電子版両方に掲載させていただきます。予めご了承ください。

＊お寄せいただいた質問の採用諾否についてのお問い合わせは，申し訳ありませんが，ご遠慮ください。

「英単語ナンクロ」のすすめ

小口　登

私は横浜市立中学校で36年間教壇に立ちました。ご存じの通り，公立中学校には様々なレベルの生徒が混在しています。とりわけ３年生になると学力の差は相当なもので，そのような中で，生徒を集中させ授業を行っていくことは非常に困難なことでもあります。私はできる限り授業に変化をつけて生徒を飽きさせず，全員がいずれかの場面で参加できる授業づくりを心がけていました。

予定していた活動がスムーズに進み，生徒の集中力も切れ始めた時によく使ったのがこのパズルです。授業では，余った時間に見合う大きさのパズルを選んで，先にマスを板書します。生徒はノート等にそれを写していきます。ほぼ全員が写し終わった頃を見計らい，それぞれのマスに私が番号を記入するとそれがスタートの合図です。解けた生徒が手を挙げると飛んでいってチェックして，正解であれば黒板に名前を書きます。上位10名以内に入ろうと生徒は真剣そのものです。

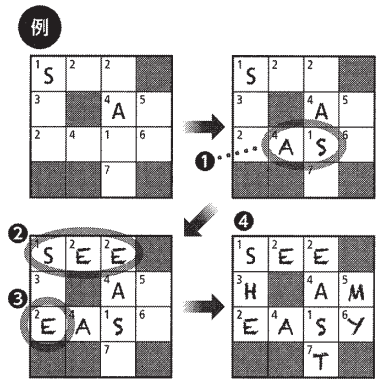
このパズルの面白さは，決して学力の高い生徒が速く解けるとは限らず，時には英語が苦手な生徒が一番速く解いてしまうことです。そのような瞬間には教室中に歓喜の声が上がります。

最後にご自分で英単語ナンクロを作ろうという方にコツをご紹介しましょう。まず最初に，同じ文字が複数入った「カギ」となる単語を考えます(右の例では see)。それを土台に縦横できるだけ同じ文字を使う単語を意識して埋めていきます(右の例では，“e”と“s”)。少しでも解きやすくするためです。最後にきれいに四角形になるように調整するのが苦労するところです。

■「英単語ナンクロ」のルールと解き方

クロスワードパズルのように「ヨコのカギ」「タテのカギ」のヒントによって解くのではなく，マスに書いてある番号をヒントにして解き進めていきます。

☆同じ番号には，同じアルファベットが入ります。
☆タテ（上から下）とヨコ（左から右）で単語を作ります。
☆使用する単語は中学で学習する単語が中心です。
☆不規則動詞の過去形，過去分詞も含まれます。
☆代名詞の“I”，不定冠詞“a”も１文字１単語として使用します。



❶　あらかじめ文字が入っている場合は，同じ数字のマスに文字を記入しておく。

❷　同じ文字が２つ入っている単語がヒントになる。このパズルでは，［１・２・２］の単語。

❸　②で［１・２・２］＝see とわかったら，２＝e も記入しておく。

❹　［EAS・７］，［EAS・６］をヒントに，すべてのマスを埋めて完成！

●入門

1 T	2	3
4	■	1
4	5 N	2

・［3・1・2］は動詞の過去形。
・「紅茶」の意味の単語が入っています。

●初級

1	2	2	3
4	5 F	■	2
6	■	2	1
7	2	8	9 E

・see－seen / go－［7・2・8・9］
・「部屋」「指輪」「より多くの」の意味の単語が入っています。

●中級

1	2	3	4	3
2	■	5	■	6
3	7 V	3	6	1
5	■	■	■	3
■	6	3	8	4

・［1・2・3・5］は三人称の代名詞。
・「目」「近くに」「入る」の意味の単語が入っています。

☆私達の故郷です。

3	8	4	1	2

☞答えは24頁に掲載しています。

●上級

■	1	2	3	4	4
1	5 E	6	2	■	5
6	4	4	■	6	2
3	4	4	■	■	2
7 D	■	■	6	8	5
■	1	9 O	10	■	8

・Tokyo sky tree is the 2・6・4・4est tower in Japan.
・be 動詞が 1 つと，動詞の過去形が 1 つ含まれています。
・「席」「息子」「手紙」「病気の」の意味の単語が入っています。

☆懐かしい曲ばかりです！

9	4	7	3	5	1

（おぐち　のぼる・元横浜市立鴨志田中学校教諭）

〈英語教育21世紀叢書〉

「英語で授業」ここがポイント

齋藤栄二　著

四六判　196pp.
本体1,700円＋税

髙橋昌由

“齋藤授業実践学”の入門書

本書は「英語で授業」の指南書である。本書が伝えようとする「英語で授業はここがポイント！」を実践すれば，英語授業に自信がない教師も，優れた実践が可能となるのは魅力的である。また，「戦略を持った闘い」である授業に教師がどのように臨めば，生徒が英語を使って主体的に参加する授業が作れるのかが説かれている点も魅力的である。

これらの英語授業実践論に加えてのさらなる魅力は，読者のみなさんも知るところとなろうが英語教師の使命とは何かなどの英語教師論や，英語教育は如何にあるべきかの英語教育論が説かれている点にある。

よって，本書は，「英語で授業」の指南書というだけでなく，教育全般にも通じる“齋藤授業実践学”の入門書であることも確認しておく必要がある。この実践学は，小学校から大学院博士課程までの教歴を持ち，教育を熟知した著者が，様々な教授法の良いところを折衷主義で採り入れて進化発展させてきたもので，日本の英語教育現場で有用だという安心感がある。

本書では，齋藤授業実践学の本質がいわば錦の御旗として説かれている。この錦の御旗は，英語授業実践論を授業の鉄則に従って易から難に説き進めていく縦糸と，英語教師論や英語教育論を「教育は永遠です」の気概で説く横糸で織られている。またこの御旗が異彩を放つのは「装飾」による：図解やイラスト等，「☆ここがポイント」，筆者と若い教師の対話，等。

図解やイラスト等は簡明で，著者の授業に参加している気分が十分堪能できる。また，「☆ここがポイント」では，それまで述べてきた内容が短く明確にまとめられているので再確認に便利である。さらには，著者と若い教師の対話では，「ところでどこまで話しましたっけ。」などユーモアのある記述なども含み楽しく読め，「なるほど！」と読者に安心感と示唆を与えてくれる。ちなみにこの若い教師は，大学教師としての著者の教え子で，著者に仲人をしていただいた現役の男性中学校教師という設定である。

本書は２部構成である。第Ｉ部での縦糸は３種類の英問英答（Fact Finding 型，Inferential 型，P. I.型）を活用しての易から難への英語授業の進め方で，横糸は訳読方式の授業の弊害や「結果が出てなんぼ」などの eye-opening な指摘で織り成されている。また『あなたは一生文型指導屋で終わるつもりなのですか』の引用を基に「私たちは英語教育の教師です。英語だけを教えるのなら，わざわざ『英語教育』と言わなくても良いのではないでしょうか。」と締められる。

第II部では，「英語で授業」の土台としての新出単語，指名，質問ができる生徒育成，音読が扱われて，それぞれの指導の縦糸と，著者の経験から得た指導の在り方（例えば，生徒の知的緊張感の高揚，「学習は個人において成立する」）の横糸で織り成されている。著者の経験には，授業や教科書執筆の経験等も含まれ，その経験の根底には「授業の成功は細部に宿る」がある。第II部の最後には「この本のまとめ」として，毎日の小さな工夫と積み上げに力を尽くして生き甲斐のある人生にしてほしい，と著者から読者へのエールが送られている。

本書の目的のひとつは，誰にでもできる「英語で授業」の方法の提案により，教師を元気づけることにあろう。これには，コミュニケーションに参加できない大量の人間を育てたこれまでの英語教育の反省に基づくと言う著者の思いに読者は対峙する必要がある。

生徒の「英語的スタミナ」を育てるためには旧弊を脱却する必要があり，「自分が変わらないで，生徒が変わるはずはありません」や「教師はたえず生徒から学べ」の著者の透徹した思いに読者は助けられるであろう。また，「皆さん，一緒にがんばりましょう」や次世代にしっかりバトンタッチしていきたいという著者の言葉にも励まされ，読者は「考えに考え抜く」ことを忘れず日々精進しようと決意を新たにすることだろう。　（たかはし　まさゆき・大阪府立園芸高等学校首席）

英語４技能評価の理論と実践

望月明彦・深澤　真・印南　洋・小泉利恵　編著

Ａ５判　320pp.
本体2,400円＋税

矢野　賢

これからの英語評価を考えるための最新ガイド

本書は，主に中・高の外国語科における４技能評価や技能統合評価に関して，理論と実践の双方から現場の教員にもわかりやすく説明した書である。

前半の理論編では，学習到達目標設定に関する理論的背景と技能ごとの評価や技能統合評価を実施する際に参考になる基礎知識がわかりやすく書かれている。

理論編１では「CAN-DO リストと観点別評価」について，それぞれの定義や目的，相互の関連などについて述べられている。リスト作成について，CEFR-J など既存のリストをもとに作成するトップダウン方式と，各学校の生徒に合わせたリストを記述するボトムアップ方式の違いや，作成上の留意点などが説明されている。評価法については，形成的と総括的双方の評価の必要性について述べている。また，観点別評価を数値化し総括的評価に繋げる例などもあり興味深い。

理論編２「ライティングの評価」では，実際に作文を書かせる直接テストと語句並べ替え等による間接テストを区別して扱っている。学習指導要領が求める前者については，その分析方法や備えるべき点などについて書かれている。評価についても，総合的・分析的評価の各事例から，ポートフォリオ評価，流暢・正確さについての考え方など，役立つ事例や説明が多い。個人的には，指導における修正やコメントなどフィードバック研究の事例が参考になった。

続く理論編３の「スピーキングの評価」では，タスク形式ごとの注意点，総合的評価と分析的評価に関する記述やルーブリックの作成例などが具体的に示されている。分岐型で示した EBB 尺度は，効率的にスピーキング評価を行うことが出来る点で有効だと感じた。このほか，スピーキングテストは実施時間の検討が必要なこと，準備や事後活動，評価の妥当性の確認方法などについて書かれており，テスト設計のための教師への配慮がなされている。

理論編４「リーディングの評価」では，コンポーネントモデルに基づいたテスト計画例を紹介している。テスト各項目は語彙，推論，要約など何を問うのかを決め，質問タイプや項目数を決定する。また，心的表象に基づいたテスト例や，テストに用いるための教科書本文と「パラレル」な文章を作成する際の留意点などについても書かれている。

理論編５「リスニングの評価」では，様々なリスニング力を能力ごとに定義した一覧表を用いて確認し，それらを素材のテキスト探しやタスクの設定に役立てる方法が紹介されている。また，定期試験と実力試験における目的の違いについて触れ，問題をいかに区別して作成すべきかが述べられている。

理論編６「技能統合的活動の評価」では，技能統合的活動における技能の組み合わせ例や，その評価対象としての最終技能を具体的なルーブリックを用いて評価する例などが説明されている。タスク全体を評価するのか最終技能を評価するのかについては迷うことが多いが，整理する上で非常に参考になる。

後半の実践編では，小・中・高，そして大学における各技能における授業実践と評価の事例を紹介している。事例を紹介しているいずれの指導者も，指導の中で生徒に身につけさせたい知識や技能を明確にし，そのための指導やテストを設定している様子や，計画どおりにいかず試行錯誤を行っている様子が記録されている。理論編１において説明されている PDCA サイクルを用い，適宜修正を加えながらよりよい指導と評価のあり方を探っている様子が伺える。

これから技能統合型の指導を計画し，CAN-DO リストを作成して評価を行おうと考えている多くの教員にとって，これらの理論と実践例は非常に参考になる。巻末の評価に関する用語解説も，学校現場の教員が言語評価の理論を理解する上で非常にありがたい。指導と評価の一体化を求められている中，教育現場に備えておきたい１冊である。

（やの　けん・茨城県立水戸第一高等学校教諭）

英語指導における効果的な誤り訂正
第二言語習得研究の見地から

白畑知彦　著

Ａ５判　228pp.
本体1,900円＋税

大山　廉

より効果的な「誤り訂正」と「明示的指導」を実践するための道標

授業，テスト，宿題など，教科指導に関するありとあらゆる場面において，英語教師にはその場に応じた専門的な意思決定が求められる。そして，学習の途上で避けがたく生じる「誤り」というものにどう対処するか，つまり，どの言語項目に関する誤りに対してどのような方法で「誤り訂正」をするか，どの例文を使ってどのような言葉で「明示的指導」をするかといった問いは教師の頭を悩ませ続けてきた。

本書は，それらの指導方法が全ての言語項目の学習に対して等しく効果を持つわけではないことを示している。しかし同時に，対象とする言語項目や実施方法，生徒の習熟度を考慮して行えば効果的な方法になり得ると主張している。つまり，誤り訂正と明示的指導をより選択的に行うべきだということである。どの誤りに対してでも，いくつの誤りに対してでも，訂正し，説明すれば，生徒は理解してくれるものと思いがちであるが，そうではないということを本書は証拠をもとに明らかにした。そして，どうすれば生徒の英語学習にとって今よりももっと効果的で，教師にとって効率的な文法指導を行うことができるのかということを実証的に提示した点で，本書は画期的である。

本書は全10章，２部構成で，第１部では，母語獲得と第二言語習得における誤り訂正の役割が説明されている。ポイントは，中高生や大学生を含む大人の第二言語習得の場合，子どもと同様に発達順序や習得順序に沿って習得は進んでゆくが，母語の知識や様々な認知能力，分析能力を備えているため，それらを最大限に活かしながら教える方が効果的だということである。誤り訂正と明示的指導の意義もそこにある。

第２部では，12の実証実験をもとにした教育実践への応用可能性が論じられている。主に大学生を対象とした実験の中で様々な言語項目（自動詞・他動詞の区別，名詞の単数形・複数形，比較表現，前置詞，接続詞，語彙など）に対して誤り訂正や明示的指導を実施し，その効果を検証している。最後の第10章「仮説に基づく指導への応用」では，あまり明示的指導に時間をかける必要のない言語項目，明示的指導が効果的な項目，効果的でない項目，母語と対比しながら教えるべき項目，有意味な文脈の中で繰り返し練習すべき項目，まずは文法項目の背景にある概念を指導すべき項目などが，体系的に分類されている。この知見は，目の前の生徒の誤りを訂正すべきかどうか，どのように説明すべきかに迷っている教師にとって，頼もしい道標となるだろう。

各実験の章末には，指導におけるポイントが示されており，これも具体的な指導場面で迷った際に進むべき道を示してくれる。例えば，困難度の高い文法形態素（e.g.，三単現-s）の習得には時間がかかるため，英文の内容を評価したい場合にはそれらの誤りに関しては減点しないなどの工夫をするべき，一度に複数種類の誤りを訂正すると注意散漫になってしまうため１つの項目に焦点を定めてフィードバックをすべき，などがある。また，明示的指導の具体例や指導に用いた教材・テスト例，日本語の構造と対比させながらの対象言語項目の記述が充実している点も参考になる。

最後に，印象的だったのは筆者の“interesting & fun”（p.176,197）という言葉である。やはり英語学習は，知的に興味深く，楽しい方がよい。文法の説明に重きを置き過ぎていたために，話す能力を育てきれなかった従来の英語教育の問題点を指摘した上で，知的で楽しい意味のある文脈の中で，明示的指導から得た知識を使って繰り返し練習することによって，自動化した能力が育つという第二言語習得プロセスを筆者は提案している。今後，この提案が全国の教室での実践と研究の両面から支持され，深化されてゆくことが大いに期待される。

（おおやま　れん・東北学院榴ケ岡高等学校，山形県立新庄北高等学校非常勤講師）

英文法のエッセンス

江藤裕之　著

四六判　240pp.
本体1400円＋税

勝　啓一

見通しのよい文法書

本書は，一度英語を学んだ人に向けて書かれたものだという。頭の中にバラバラにインプットされている文法事項が整理されるよう，「可能な限り論理的で体系的な記述」（「はじめに」）がされている。大部な英文法書とは異なり，英語を理解するための必要最小限のエッセンスによって，英文法全体が見渡せるような形で記述されているのだが，文章はやさしく，高校生でも十分読み進めることができる。

200頁あまりで，高校までで学ぶ文法事項が取り上げられている。文理解の基本となる動詞から準動詞までで，全体の6割弱にあたる約120頁を使っている。特にこの部分の説明が，著者が考えるエッセンスが上手く組み合わせられていると感じた。

著者はまず「Ⅰ　動詞の形が示す時間」において，時制と法に特に注意すべきとし，「現在・過去・未来といった時間を区別し，また，事実を表す「直説法」の文なのか仮想や希望的観測を表す「仮定法」の文なのかを見極めることが最重要ポイント」と述べている。現在形は「現在を含む時間帯の事実」を示すという視点は大切である。時や条件の副詞節の中では現在形を使う理由が，「事実」として話者の頭の中で想定されていると考えれば，理解しやすい。完了形や進行形も，「事実」を述べるということを前提に，それが時間的視点からどこに位置づけられるのか，またどのように起こっているのかという視点から説明されている。

「Ⅱ　心の想いを描く表現」において助動詞と仮定法について述べている。助動詞のエッセンスとして，「「事実」ではなく，「話者の考え」を表す。「事実」でないという点から，助動詞は「未来的なニュアンス」をもつ」と述べている。これは，can，may，must といった助動詞の持つ共通の文法的な意味である。また助動詞の過去形については，時間的視点より「気持ちの上で（心理的に）離れている」という心の状態を読み取る重要性を述べている。したがって，助動詞の過去形は「理屈ではできるが，実際ではやらないだろう」という含みを持ち，これが仮定法へとつながっていく布石となっている。

仮定法は，直説法との対立から説明し，if の部分より注意すべき点は，助動詞の過去形は仮定法のサインの可能性があると指摘している。「仮定法とは if ～のこと」という思い込みはよくあることである。

「Ⅲ　文中で様々な働きをする動詞の変化形」において，準動詞を扱っている。動名詞が「過去のこと」というより「事実」や「想定されたこと」を表すと述べている。こう説明すると，enjoy や stop が動名詞を取る理由が分かりやすくなる。

「Ⅳ　名詞と修飾の表現」では，名詞から比較までを扱っている。名詞については，数えられる名詞は「数」を，数えられない名詞は「量」「価値」「内容」などを問題にするとし，お金の場合は，重要なのは紙幣や効果の「数」ではなく，お金の「量」と分かりやすい説明である。不定冠詞と定冠詞が持つ文法的意味も簡潔にまとめられていて，イメージしやすい説明となっている。

「Ⅴ　文中の「語のまとまり」を示す語」として前置詞から関係詞を扱っている。各前置詞の根本イメージがうまく説明されている。

またエッセンスばかりでなく，よく取り上げられる疑問に対して，ワンポイントコラムを設けているのも親切である。

文法の説明をするとき，これも教えなくては，あれも知っておいて欲しい，とどんどん説明が増えていくことはないだろうか。様々な本が出版されているが，本書は読者がいろいろ感じてきた文法の「なぜ」に答えながら，選び抜かれたエッセンスによって見通しのよい英語の全体像を見せてくれる。

（かつ　けいいち・滋賀県立大津商業高等学校教諭）

大修館書店の本

◆達人英語教師，伝説の英語学者の人物像と偉業
〈明治から昭和まで〉日本の英語教育を彩った人たち
外山敏雄＝著
（四六判・248頁・本体2,100円＋税）

◆異なる文化の相手と共に生きるために
相互文化的能力を育む外国語教育
マイケル・バイラム＝著　細川英雄＝監修　山田悦子，古村由美子＝訳
（A5判・322頁・本体2,800円＋税）

◆名探偵に学ぶ仕事との上手なつきあい方とは
シャーロック・ホームズの成功の秘訣
デヴィッド・アコード＝著　大原千晴＝訳
（四六判・210頁・本体1,600円＋税）

■19頁　英単語ナンクロパズルの答え■

●入門

T	E	A
O	■	T
O	N	E

●初級

R	O	O	M
I	F	■	O
N	■	O	R
G	O	N	E

●中級

T	H	E	R	E
H	■	Y	■	N
E	V	E	N	T
Y	■	■	■	E
■	N	E	A	R

E A R T H

●上級

■	S	T	I	L	L
S	E	A	T	■	E
A	L	L	■	A	T
I	L	L	■	■	T
D	■	■	A	R	E
■	S	O	N	■	R

O L D I E S

お知らせ

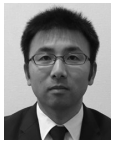
小社英語教科書についてのご質問，感想などを小誌編集部宛にお寄せください。「G.C.D. 教科書 Question Box」で随時ご紹介・ご回答してまいります。

また，小社教科書を使った授業の紹介などのご投稿（郵送のみ）をお待ちしております。（採否のご連絡は致しておりません。また，原稿はお返ししません。）

なお，小社ホームページには小社教科書の内容をご案内しているサイトがございます。ここでは，英語の先生方に役立つ様々な情報も提供しております。

http://www.taishukan.co.jp/gcdroom/

営業便り



▶先生方におかれましては，日々の授業や学校行事にご多忙のことと存じます。平成28年度用教科書採択が出そろう時期になりました。全国から多くのご採択をいただき，誠にありがとうございました。▶ついに風が秋の気配になったと思いましたら，先日北海道では大雪山系・黒岳から，初雪の便りが届きました。今年2月，札幌に赴任した当初は，先生方にも雪道の運転を心配されながら学校にお邪魔しておりました。今ではいくらか北の生活にも慣れ，これから2度目の凍（しば）れる冬を迎えます。▶冬は寒さ厳しい北海道ですが，冬の味覚を味わって何とか乗り切りたいと思います。また，冬を楽しむウインタースポーツも観戦に行きたいと思います。▶話題となりました『ジーニアス英和辞典 第5版』が世に出て，早一年が経とうとしています。全面改訂し学習者に使いやすくなり，新語も収録しております。これから小社営業マンが，辞書や副教材のご案内に参りますので，よろしくお願いいたします。その際は，ご要望や多様なご意見も頂ければ幸いです。　（札幌営業所　久保田真史）

編集後記

▶『G英和 第5版』は，「ジーニアス」史上最大規模の改訂を行った「第4版」の根幹部分をさらに徹底的に見直し，磨き上げた辞典です。刊行から1年の本号では，ご利用くださっている先生方の感想や学校での指導実践例，編者から改めてご紹介したい内容等をまとめた特集としました。全国でお使いいただいている先生方はどのようにお感じでしょうか。▶新語も多数追加していますが，改訂時に初めて接した言葉の1つに「googlegänger グーグルゲンガー《ネット上で見つけた自分と同姓同名の人》」があります。doppelgänger からの連想で生まれたこの語のほか google 関連では googleable，googleability 等も加わりました。新しい事物に対応して表現が生み出され，広がる過程を興味深く思います。今日もどこかで新語が生まれているのでしょう。▶現在の英語学習で重視される「発信」に役立つコロケーション欄も充実していますので，先生方，生徒の皆さんに活用されることを願っています。（湯）

Genius·Compass·Departure
英語通信

第56号
2015年11月15日発行
（年2回発行）

編集人：©「G.C.D.英語通信」編集部
発行人：鈴木一行
発行所：株式会社　大修館書店
〒113-8541　東京都文京区湯島2-1-1
電話（03）3868-2292（編集部）／（03）3868-2651（販売部）
［出版情報URL］http://www.taishukan.co.jp　［振替］00190-7-40504
印刷・製本：文唱堂印刷株式会社

Ⓡ本誌のコピー，スキャン，デジタル化等の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。本誌を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することは，たとえ個人や家庭内での利用であっても著作権法上認められておりません。